

令和3年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	大野原小学校、大野原中学校 児童数 小学校21、中学校6人	担当者名	児玉 美佳子
住所	郵便番号 8430304 嬉野市嬉野町岩屋川内丙 720 番地	電話番号	0954-43-0807

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためだけに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱については、佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/privacy/privacypolicy.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本でつながる大作戦！ ～きいてみよう、つたえてみよう、あなたのきもちわたしのきもち～
	取組期間	令和3年 4月 6日 ～ 令和3年 11月 30日

※令和3年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和3年11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	57人	実施日数	146日	読書冊数	5775冊	連携した団体数	3団体
	取組内容（概要）	<p>1. 継続している取組とその改善</p> <p>①ブックリスト ②読書意欲の向上 ③変化のある図書室づくり</p> <p>2. 宣言目標「本でつながる大作戦」</p> <p>①本に手紙をつけてみよう（聞いて私の気持ち）②POP コンテストに応募しよう（知って！この本の素晴らしさ）③こどもの本総選挙（おすすめ本でボランティア）④お礼の絵本作成（ありがとうを形に）</p> <p>3. 地域、保護者、ボランティア等との連携</p> <p>①おもちゃプラザ②おはなしどんどん③うれしの図書館との連携④学校給食とのコラボ</p>						
	工夫したこと	<p>1. 継続している取組とその改善</p> <p>①ブックリストの改善…教科書掲載の図書を学年ごとに分け配架している。教科書改訂、変更に伴い、図書の変更と図書リストの修正を実施した。図書の学年表示シールとリストの表紙の色を合わせるなど分かりやすさの工夫も行った。</p> <p>②読書意欲の向上…多読賞の表彰や読書目標達成者には手作りの目標達成カードを作成配布した。ブックリストやブックリスト読書ノートなどを作成し、児童生徒自身でのリストのシール貼り、ブックリスト読書ノートでは読書感想を担当が確認できるようにした。読書の頑張りを目で見て分かるような工夫をした。</p> <p>③変化のある図書室づくり…月ごとの季節を感じる掲示や、行事や時事に合った図書コーナーを設置し、おすすめ本の紹介など、図書室への関心をひく工夫をした。</p> <p>2. 宣言目標「本でつながる大作戦！」</p> <p>少人数でできる図書活動はないかと考え、Web 応募や郵便などを利用し本校外の方たちとの図書活動への参加や交流などもできるよう工夫した。</p> <p>①本に手紙をつけてみよう（聞いて私の気持ち）…自分の好きな本に「この本を読むあなたへ」と題した手紙を貼り掲示した。あて名・送り名がないため、少し気楽に素直に手紙を書くことができたとの感想があった。本を手にとった児童生徒は、手紙に返事をしたり共感したりとさまざまな反応があった。</p>						

	<p>②POP コンテストへの応募（知って！この本の素晴らしさ）…少人数でも参加できる POP コンテストへの応募を行った。授業で POP 作成に取り組んでもらい、その作品を掲示後、応募した。児童生徒は最初、POP 作成を苦手と感じていたが授業で学ぶことで POP 作成の楽しさや良さが理解できた様子だった。</p> <p>③こどもの本総選挙（おすすめ本でボランティア）…おすすめの本を 1 冊投票することにより 1 円寄付のボランティアができるという企画を児童へ周知して実施した。</p> <p>Web 投票であったが、児童にはおすすめ本を記入した用紙を実際に投票する形をとり、ボランティア活動参加の実感が持てるよう工夫した。総選挙結果は全国の小学生の集計結果が発表されるため、児童からは自身のおすすめ本が何位になるのか楽しみだという話があった。</p> <p>④お礼の手作り絵本作成（ありがとうを形に）…ある縁で大野原小中学校を知っていただいた東京在住の絵本作家より絵本の寄贈があった。絵本は児童同士で読み語りをを行い、絵本の感想とありがとうの気持ちを手紙に作成した。手紙は大野原小中学校の紹介を含めた 1 冊の絵本にして絵本作家へ贈った。</p> <p>3. 地域、保護者、公共施設、ボランティア等との連携</p> <p>①おもいやいプラザ…学校正門すぐにある「おもいやいプラザ」には、誰でも自由に利用できるミニ図書館を設置している。公共タクシーの待合所としても利用されており地域方や保護者、児童生徒がゆっくりと読書を楽しむことができるよう環境整備に努めている。</p> <p>②おはなしドンドン…嬉野市のボランティア団体に、月に 1 回児童生徒に絵本の読み語りを実施してもらっている。</p> <p>③うれしい図書館との連携…毎月、学年ごとに図書の希望をだし、希望にそった配本を実施してもらった。公共図書館の資料を利用できることで、充実した調べ学習を実施することができた。</p> <p>④学校給食とのコラボ…昨年に引き続き、学校給食センターと学校図書館とのコラボに参加した。本とその本に登場する食べ物を紹介し、児童生徒教職員で給食として食べたいものに投票を行った。この企画はととても好評であり、全員が楽しみにしているイベントである。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>少ない人数でどのような取組ができるか考え工夫した 1 年だった。Web や郵便を活用することで、本校外の方たちとの図書の活動や交流ができたと思う。こどもの本総選挙投票では、本を通して誰かの役に立てたということに、とても嬉しそうな児童の笑顔が印象的だった。寄贈絵本の読み語りでは、絵本を作る人が大野原小中学校を知ってくれたこと、絵本に対する感想を届けることができることに驚きと嬉しさの気持ちを表現してくれた。継続して続けている取組も今年新たに実施した取組も、みんなで楽しみながらできたということがとてもよかったと思っている。</p>
<p>これまでの取組や今後の取組予定</p>	<p>読書量については、全児童が年間 1 0 0 冊以上となり、多い児童は 4 0 0 冊を超える。中学生についても読書量の向上がみられ、ほぼ毎日、全児童生徒が図書室に来てくれている。今後は、読書内容とという点に重点をおいて、ブックリスト読書の推進やブックリスト読書ノートの取組を継続し、「質のある読書」を目指して取り組んでみたいと思う。</p>

取組内容

1. 継続している取組とその改善

①ブックリスト



学年別に配架している教科書掲載の図書



学年別に色分けしたブックリスト

小学校は、年度末までに、ほとんどの児童がブックリストを読み終えることができています。
中学校は、3年間で読み終えることができるように声掛けをしている。

②読書意欲の向上

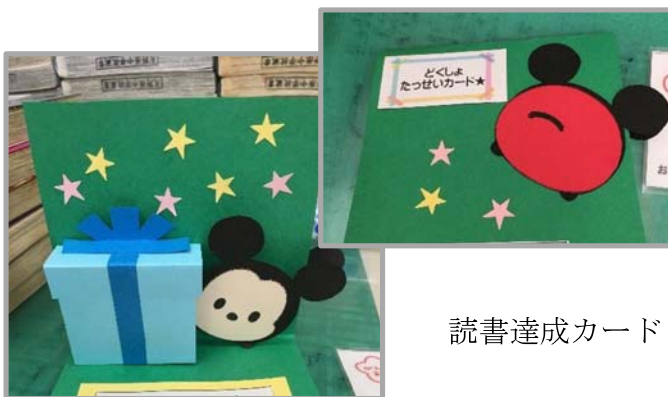


ブックリスト読書ノート

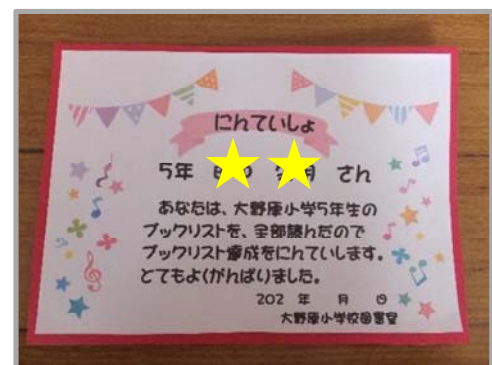


ブックリスト読書冊数

ブックリストの読書意欲の向上のため、リストへの児童生徒自身でのシール貼りや、読書ノートへ読書の感想を記入すると担任等からのコメントやご褒美シールなどがもらえるようになっている。
また、読書冊数を掲示し、児童生徒の頑張りが分かるようにした。「あと、2冊!」「〇〇さんはもう読み終えている。私も頑張ろう。」など前向きな声を聞くことができた。



読書達成カード



100冊、200冊…と100冊ごとに手作りの読書達成カードを渡している。達成冊数で読書達成カードのデザインを変え、ハロウィンやクリスマスなどイベント月には限定の読書達成カードにするなどの工夫している。児童生徒にはとても好評であり児童生徒同士で見せ合うなどし、とても喜んでくれていたように思う。

③変化のある図書室づくり



季節に合わせた飾りや、委員会による本紹介の作成掲示。食育、平和、人権などイベント週間に合わせた図書コーナーを設置した。



2. 宣言目標「本でつながる大作戦！」

①本に手紙をつけてみよう



手紙をとおして、こんな事を思っているのだと知ることができた。



②POPコンテストへの応募



③こどもの本総選挙



僕は、この本が大好きです。その想いをたくさん書きました

1 投票で1円寄付



事前に掲示板にて、企画内容とその趣旨を掲示した。全児童がおすすめ本を投票に参加してくれた。この企画は小学生対象だったが、おすすめの本を投票する＝ボランティア活動という企画に、中学生や教職員からは自分たちも参加できたらよかったのにと残念がる意見があった。小学生は「寄付します」と言い、笑顔での投票ができた。

④お礼の手作り絵本作成



読書祭のイベントの一つとして、寄贈絵本の読み語りを実施した。委員会のメンバーは、何度も何度も練習し、とても良い読み語りとなった。読み語り実施後は本の感想を書いてもらった。児童それぞれ挿絵も入れてくれており、お礼の絵本としてとてもいいものを作成することができた。

3. 地域・保護者、公共施設、ボランティア等との連携

①おもやいプラザ



おもやいプラザは、常時開放しており、室内には、図書を設置している。地域・保護者・児童生徒など、待合の時間に読書をする姿が見られる。図書は持ち出しも可能であり、気持ちよく過ごしてもらえるよう維持管理に努めている。

②絵本読み語りグループ「おはなしどんどん」

③うれしの図書館との連携



学校外からの、読み語りや図書の借用ができることは、とてもありがたく、児童生徒へのよい刺激になっている。読み語り法には学ぶことがたくさんあり児童生徒の勉強にもなる。

④学校給食と学校とのコラボ



この給食センターとの連携は、図書だよりで各家庭にお知らせしており、保護者からは「私も参加したい」「食べてみたい」との嬉しい意見があった。来校時には掲示物にも高い関心があった。

